

長寿社会になれたのは



戦後日本が経済成長を遂げ、社会保障の支えもできて世界一の長寿社会を実現したのは平和憲法と「専守防衛」のおかげです。私が岸田政権は、ほとんど議論せず文書を閣議決定し、「専守防衛」を投げ捨てました。強い危機感を持っていました。

NPO法人高齢社会をよくする女性の会理事長

樋口恵子さん

岸田大臣拝見あり

私が90歳まで生き延びる」とができたのは平和憲法、それができなければ国が国民を大げんにかけたと言わざるを得ません。防衛費を大幅に削減せねばなりません。けしからんですね。そのおりで介護保険の給付が削られることなどあってはなりません。そもそも戦争は容極のケア放棄です。

田学生の私が好きだった憲法の条文は27条、「すべて國

年、私は結核を患い休学した。後、中学校に復学しました。おやおやと入っていった教室は新憲法で沸き立っています。先生が何時間も憲法の講義をして、放課後も「何条が好き?」と話題になりました。やはり一番人気は9条、戦争放棄でした。

私が90歳まで生き延びる」とができたのは平和憲法、それができなければ国が国民を大げんにかけたと言わざるを得ません。防衛費を大幅に削減せねばなりません。けしからんですね。そのおりで介護保険の給付が削られることなどあってはなりません。そもそも戦争は容極のケア放棄です。

私は、勤労の権利を有し、義務を負ふ」でした。男も女もない。勉強して職業能力を身に付け働くことと希望に燃えました。ところが東大卒業時に就職差別があり挫折しました。85年に男女雇用機会均等法ができるまで、雇用の場にはあからさまな差別がありました。民間企業では女性は結婚や出産をしたら退職など一定の差別もあったのです。

その撤廃を求めて裁判闘争に持ち込んだ方の多くは共産党の女性たちだったと思います。そのあたりは共産党の人たちを心から尊敬します。81年に、「男女別定年制は無効」の最高裁判決が出ました。私は、戦後働く女性の地位向上に尽力した人といったら、党派を別にして真っ先に

その方々をあげますね。

聞き手 内藤真由子
写真 細川 豊史